

(第三種郵便物認可)

ペダルがなく地面を蹴って専用自転車で走るランバイクで、三島市立中郷小3年の桑原大我君(8)が、国内最高峰のランバイクレースの全日本選手権シリーズで3回目の年間グランドチャレンピオンを目指している。選手権は9歳で引退する仕組みのため、桑原君は9月に競技から退く。最終シーズンを迎え「連勝して年間王者になりたい。競技を終えたら陸上に力を入れる。夢は五輪に出ること」と力強く語った。

目指せ年間王者 ランバイク疾走

全日本選手権 4戦3勝

レースで実力を発揮する桑原君(右) 11月5月上旬、裾野市今里の市運動公園



9月引退 桑原君(三島) 実力に磨き

優勝を果たした。桑原君と同じチームの樺山琥太郎君(8) 11小山町も2位に入り、県勢が上位独占した。

桑原君がランバイクを始めたのは4歳。清水町で開かれたレースを見て興味を持ち、チーム「ファーストキッズIU」や個人での練習を重ねて実力を付けた。米国で開かれた世界大会の4歳クラスで優勝するなど頭角を現し、国内外の大会で活躍している。

勝ちにこだわりの練習をしてきた桑原君。努力家で、練習が結果につながることをランバイクを通して学んだという。練習や大会を通じ、全国

同シリーズは、全12戦を約1年間かけてポイント制で競う。裾野市でこのほど開かれた第4戦は変形コーナーを含む約250m。桑原君は予備予選から準決勝まで1位で通過し、決勝も圧倒的な実力で

の友達に会えることも競技に臨むモチベーションになっている。

ランバイクは保護者が監督として指導することが多い。父の佑生さん(42)が戦略や技術面、母の和美さん(43)がメンタル面のサポートに当たった。和美さんは「親子の信頼関係が強まった」と話す。

これまでの4戦で3勝し、9月まで残すレースで連勝を狙う。引退後はランバイクと並行して練習に取り組んでいる陸上競技に力を注ぐ。桑原君は「100歳で世界記録を出したい」と目を輝かせてた。

(東部総局・山本萌絵佳)